

生徒指導だより

平成31年2月21日発行

No. 330

秋田県総合教育センター
支援班児童生徒支援担当
TEL 018(873)7205

今年度もあと1か月となりました。3月は卒業など、別れの時期となりますが、新たな出会いに向けた準備の時期でもあります。新しいことに挑戦しようと考え、動き出すきっかけを掴もうとしている児童生徒もいることでしょう。様々な課題や悩みを抱える児童生徒にとっては、新たな一歩を踏み出す大事な時期と言えます。適切な支援ができるように、来年度に向けての準備を進めましょう。



平成30年度 第33回秋田県教育研究発表会

2月7日（木）に行われた秋田県教育研究発表会において、生徒指導に関する研究を発表しました。2年計画の1年次の取組について、以下にその概要を紹介します。

センター研究3

感情制御に関する問題行動への対応における留意点の整理（1年次）

近年、ささいなことをきっかけに暴力行為に至るなど、感情制御がうまくできないことに起因する問題行動が増加傾向にあるようです。児童生徒の特性や家庭環境、社会の変化など様々な要因が複雑に絡んでおり、各学校では児童生徒理解や対応に苦慮するケースが見られます。

そこで、適切な指導・支援を行うためには、問題行動の背景について理解し、それに基づいた具体的な手立てを講じる力量を高める必要があると考えました。

研究1年次の今年度は、次のようなことに取り組んでいます。



1年次（平成30年度）

整理
分析

○感情制御に関する問題行動についてアンケートを実施、分析
○当センターの教育相談事例を整理、分析

作成

○感情制御に関する問題行動の仮想事例を作成
○アセスメントを行う際の考え方・ポイントを整理

活用
修正

○研修講座等において仮想事例の活用と修正

発信

○教育研究発表会で発表
○当センターウェブサイト上に公開（予定）

感情制御に関する問題行動への対応についてアンケートを実施、分析し、現状の把握に努めました。また、アンケートの他に当センターにこれまで寄せられた相談事例を整理・分析しています。感情制御に関する仮想事例の作成の他、アセスメント（手立てとなる仮説を導き出すための検討）を行う際の考え方・ポイントを整理しました。作成した仮想事例を当センターの研修講座で活用し、内容や活用方法について修正を図りました。

アンケートの結果から次のようなことが考えられました。

一つ目は、感情制御に関する問題行動への指導・支援について、家庭環境や生い立ち、問題行動の背景を探ることなど、児童生徒理解の困難さがあることです。二つ目は、校内の支援体制づくりや教職員間の共通理解を図ることに対して課題があることです。

そこで、感情制御に関する問題行動の事例を「実際にアセスメントを行う」などの研修を行うことにより、問題行動の捉え方について実感を伴った理解を図ることにしました。さらに、アセスメントを行う際、協働的な活動とすることで、参加者間の共通理解を深め、学校における組織や集団としての力量向上を図ることができるよう考えました。

感情制御に関する問題行動の仮想事例を作成し、その仮想事例を用いた研修の進め方や考え方・ポイントを整理しました。

仮想事例の作成については、現状を踏まえた事例となるよう、アンケート結果の「感情制御に関する問題行動の具体例」を反映させました。アンケートでは、「感情制御に関する問題行動について、具体的にどのような行動が見られるか」質問に対して、925例回答を得ています。その感情制御に関する問題行動の具体例を仮想事例の要素として整理しました。

作成した仮想事例を用いた研修では、問題行動への手立てとなる「仮説」を導き出すための過程を可視化できるようにしました。

アセスメントシートを使い、大きく四つのステップ（「情報の収集・整理」→「理解・解釈」→「仮説・計画・立案」→「全体共有」）でアセスメントを行います。

「情報の収集・整理」では、仮想事例を基に情報を整理します。その際、「本人」に関することと、「本人の周囲の環境」と分けて整理します。「本人」に関しては、「学習面」や「生活面」、本人の得意・不得意などに着目し、整理します。「本人の周囲の環境」に関しては、本人が周囲の環境から受けている影響について、問題行動が見られたときの周囲の状況や家族との関係性などについて整理します。

「理解・解釈」では、グループ内で整理した情報を基に児童生徒の状態について想像していきます。個人で付箋に記入し、意見を出し合います。その後、グループ内で意見を交わすことで、児童生徒の状態について更に具体的に背景を想像していきます。

「仮説・計画・立案」では、グループ内で仮説を作り上げ、支援の手立てをアセスメントシートに直接記入します。

最後に「全体共有」を行います。複数のグループでアセスメントを行った場合、各グループでまとめた仮説を全体へ説明して、考えを共有します。説明を行う際、仮説を導き出すまでに検討した過程を紹介します。

各学校で実際にアセスメントを行う場合、仮説を立てた後、誰がいつ何をやるかなど、具体的な手立てについて計画を立てます。

詳細については、2年次にまとめたものを提案する予定です。

※今年度の発表内容を研究紀要や当センターウェブサイトに掲載します。是非御覧ください。

- ・電話相談：018(873)7206
- ・来所相談申込み：児童生徒支援担当 018(873)7205, 特別支援教育担当 018(873)7215
- ・児童生徒支援ウェブサイト <https://www.akita-c.ed.jp/~cjid/>

仮想事例の作成に向けて

質問項目：具体的にどのような行動が見られるか記入してください。
 授業中離席したり、床に寝転んだりしている、暴言、暴力、関係ないことを大声でしゃべり続ける、登校時玄関で暴れる、暴言を吐く、かんしゃくをおこす、泣き叫ぶ、イライラ、いじめ、切れやすく物や人に当たる、暴言、切れやすい、教室に居ることが難しい、切れやすく頭に血が上る、暴言が見えなくなる、感情にムラがあり呼びかけても回まつまま反応しない、その場に合わないことを平気で言ったり行動したりする、離席、暴言、かんしゃく、暴力、コミュニケーション不可、他者とのコミュニケーションに問題がある、暴言、離席…etc

925例の回答

感情制御に関する問題行動の具体例を
仮想事例の要素として整理

制御不能	攻撃	逃避	固まる
きれやすい、かんしゃくを起こす、パニック状態	暴言や暴力といった行動	逃げたり隠れたりする行動	反応がない、表情が乏しい、感情の押さえ込み
コミュニケーション不全	落ち着きがない	注目・関心を引く	無気力
コミュニケーションを回すことに課題	離席を繰り返す、集中できない、注意不足な行動	問題行動によって注目を繰り返している行動	自暴自棄、悲観的な発言といった行動

